

AIで加速する「未来からの発想」：不連続型イノベーション創出への道

多くの日本企業のDXは業務効率化に留まり、新規事業創出で世界に遅れをとっています。この状況を打破するためには、現状の延長線上ではない「不連続型イノベーション」が必要であり、未来の環境変化を起点とするAIを活用したアイデア創出プロセスが有効です。

現状の課題：世界から取り残される日本のイノベーション

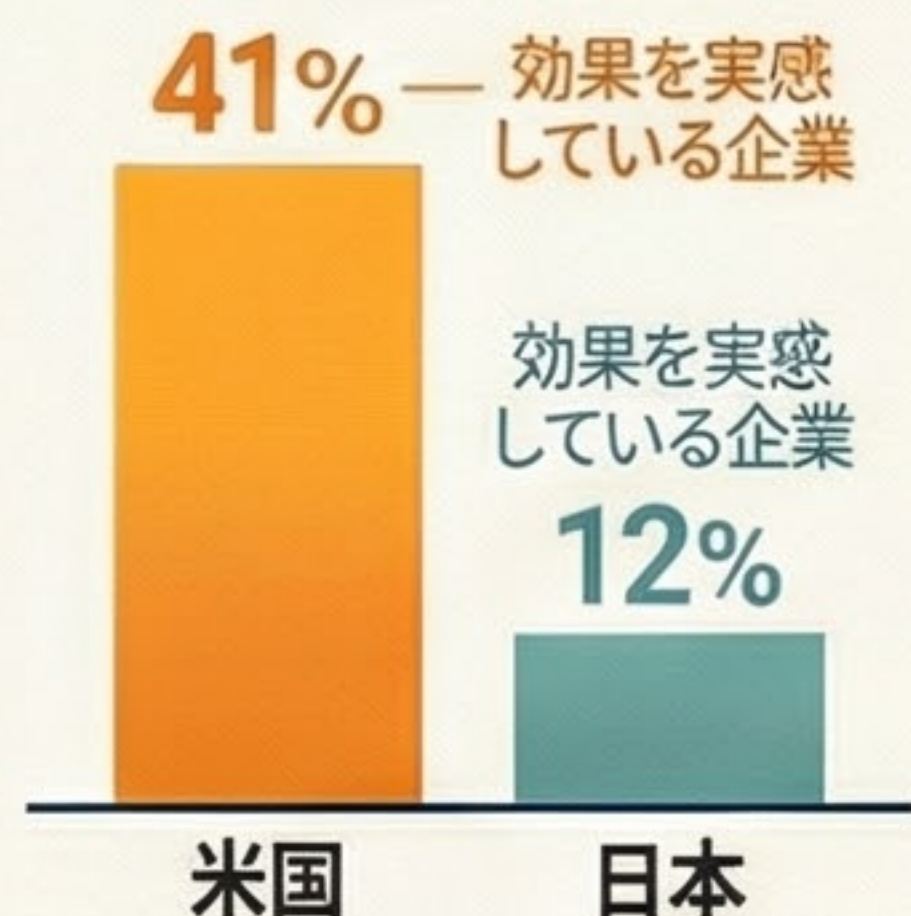
解決策：AIを活用した「問題発見型」アプローチ

世界13位にとどまる
日本のイノベーション力

事業企画での生成AI
活用には大きな遅れ

13位

WIPOの「Global Innovation Index 2024」による評価。



米国の41%に速く及ばない。

DXの目的が「効率化」に偏り、
新規事業創出が手薄に



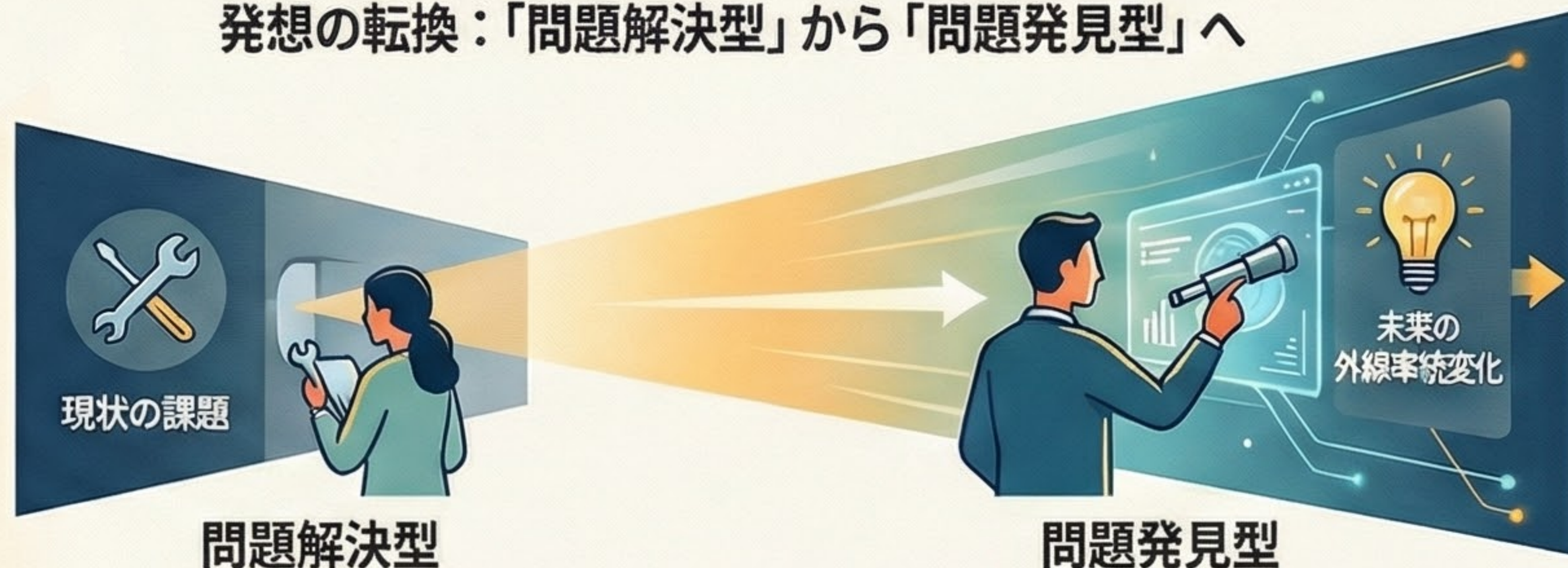
国内企業のDXは、新進的な改善が
中心となっている。

長期的な競争優位性は
「新規価値創出」から生まれる



効率化目的のAI活用による優位性は、
時間と共に満ちていく。

発想の転換：「問題解決型」から「問題発見型」へ



現状の課題ではなく、未来の外環境変化をアイデアの起点とする。

アイデア創出プロセスの強化：AIの活用例



① 外部環境の分析
Deep Researchによる
構構・予測の洗い出し
(発散)

③ 関係性の整理
生成AIによる関係性の
整理・可視化(収束)

⑤ 解決策の立案
生成AIとの「壁打ち」
によるアイデア創発

⑦ モデルの評価
実現性・市場性の評価
およびシミュレーション